

実証課題名	中日本における混合堆肥複合肥料の生産・流通モデルの実証 (R5～R7)
構成員	(株)ユーグレナ、大協肥糧(株)、(株)クレスト、(株)タックジャパン、(株)七久里農園
ペレット堆肥製造施設	大協肥糧(株)(三重県伊賀市予野町)

【背景・課題】

鶏ふん堆肥は肥料成分含有率が高く、輸入肥料の代替として利用拡大が期待されているものの、堆肥の品質管理や散布労力の問題からその利用は進んでいない。本実証事業は、鶏ふん堆肥の広域流通を目的としており、鶏ふん堆肥と化学肥料等を混合したペレット堆肥(混合堆肥複合肥料、または特殊肥料入り指定混合肥料)を製造することで、散布特性・運搬性を高めるとともに、栽培実証を通じて、生産者の肥効ニーズに即した高品質・高付加価値なペレット堆肥の製造を目指す。

【鶏ふん堆肥の水分調整技術の確立】

密閉型コンポスト内での二次発酵期間の延長処理、乾燥鶏ふん、戻し堆肥の活用等を検討



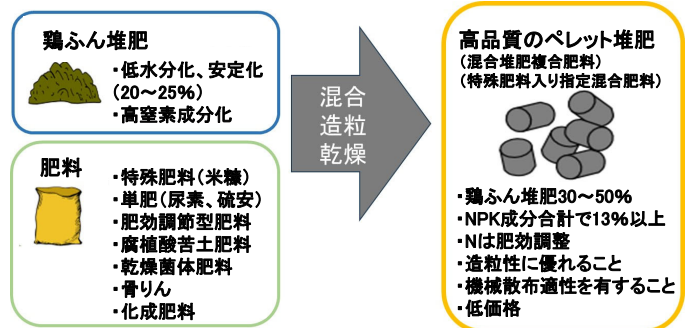
一次発酵(鶏ふん+戻し堆肥) (水分:65~70%) 二次発酵(通気・攪拌) (60℃、2~3日間、水分:60%) 1か月堆積・乾燥 (水分:20~25%)

目標

- ・鶏ふん堆肥の含水率を最終25%以下となるように調整
- ・ペレット堆肥の生産性(造粒性)を安定化

【鶏ふん堆肥を用いたペレット堆肥の設計及び製造】

適正に水分調整された鶏ふん堆肥を30~50%配合し、様々な原料を用いて、高品質ペレット堆肥を製造

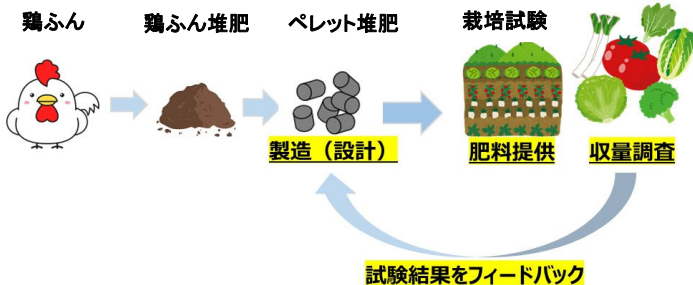


目標

- ・ペレット堆肥の製造量: 1,000t/年以上 (R12年最終目標)
- ・ペレット堆肥の製造コスト: 58,000円/t以下
- * 既存販売品(6-4-3)と同等以下の製造コストを目標
- * 製造コスト: 原材料費+加工費の合算

【試作ペレット堆肥を用いた栽培実証】

- ・試作肥料の肥効パターンの把握(窒素無機化特性)
- ・試作ペレット堆肥を施肥し、慣行区の生育・収量と比較
- ・肥効特性を評価して、次年度の製造工程(原料選択)や配合設計にフィードバックすることで改善を図る

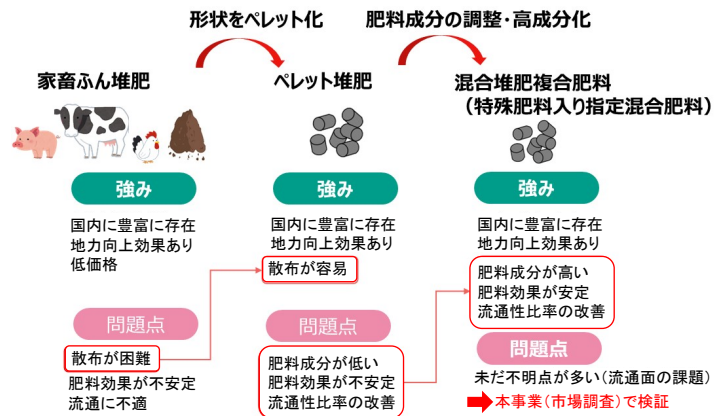


目標

- ・慣行区と同等以上の収量を確保
- * 対象作物: 葉菜類、果菜類
- * 対象地域: 中日本(長野県、岐阜県中心)

【広域流通に適するペレット堆肥の市場調査】

広域流通に向けた課題抽出を目的とし、アンケート調査を実施



目標

- ・生産者がペレット堆肥に求める特性を明らかにし、広域流通に適するペレット堆肥の開発に活用 (回答数: 中日本中心に100件を目標としてデータ収集)

【問い合わせ先】

実証代表

株式会社ユーグレナ サステナブルアグリテック事業部

視察等の受入について

株式会社ユーグレナ サステナブルアグリテック事業部長 井上 陽介
(yosuke.inoue@euglena.jp)